

令和7年度 調布市立第四中学校 学校評価報告書（学校長 佐藤 政彦）

学校の教育目標

心ゆたかに 体たくましく 賢い生徒 の育成

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

目指す生徒像を「澄み渡る心 さわやかな態度 熱い姿勢」とし、学校スローガンを「さわやかで熱い四中」とする。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①調布市防災教育の日(4月), 東京都ふれあい月間(年3回), 調布市のちと心の教育月間・道徳授業地区公開講座(12月)により, 自他の生命尊重や思いやりの心を育てる。	①少人数・習熟度別指導やユニバーサルデザインの視点に立った授業, 生徒自ら学習課題・学習活動・発表形式を選択する授業により, 個々の興味・関心を生かし自主的・自発的な学習を促す。	①特別支援教育校内委員会を週1回開催し, 支援の必要な生徒の支援方法を検討する。また, 特別支援教室専門員・不登校対応巡回教員・SSW等を活用して教育相談の充実を図る。
	②職場体験, 福祉体験, 校外学習, 旅行集団宿泊の行事等を通して, 他人の良さや違いを認め, より良い人間関係を構築させる。	②モバイル端末を日常的かつ効果的に活用し, 個人の思考を表現させ, 更に共有・相互評価させる。ICT推進教師を中心に活用を推進する。	②毎月の保健給食委員会の活動等により, 望ましい食習慣を身に付けさせ, 健康的な生活を送らせる。給食時, 食物アレルギーに配慮する。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①学校評価で「道徳教育の充実」についての肯定的な回答94%以上を目指し, 結果95.0%であった。	①学校評価で「主体的な学習態度の育成」についての肯定的な回答94%以上を目指し, 結果94.7%であった。	①学校評価で「教育相談の充実」についての肯定的な回答81%以上を目指し, 結果86.3%であった。
	②学校評価で「体験活動の充実」についての肯定的な回答92%以上を目指し, 結果93.3%であった。	②学校評価で「モバイル端末の活用」についての肯定的な回答83%以上を目指し, 結果78.6%であった。	②学校評価で「食育指導の充実」についての肯定的な回答88%以上を目指し, 結果87.0%であった。
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業地区公開講座は内容的にも素晴らしく, アンケートの結果通りの成果が現れている。</li> <li>職場体験は地域の企業や事業所の協力もあって, 有意義な活動の場になっている。</li> <li>いじめを起こさない学校風土が感じられる。月毎の取組の成果がみられる。</li> <li>今後も各取組が, 人や生き物に対する優しさや思いやりの基盤となるように指導をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開で生徒の様子を見た際, 話し合いの場面が多く見られ, 主体的に学ぶ姿勢が見とれた。</li> <li>②の項目については, 目標値とのポイントの差を検証し, 次年度に活かす必要がある。</li> <li>AIの利活用も視野に入れ, 今後更にICTの有効的な活用について研究や研修が必要ではないか。</li> <li>将来に向けて, ICTの活用と能力向上に向けて積極的に取り組んでいる様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導力の高い教職員集団により, 確かなガバナンスのもとで相談体制が充実していることがうかがえる。</li> <li>「健やかな体」を育成するためにも, 「居心地向上プロジェクト」を継続発展させ, 子どもたちが安心できる居場所づくりに努めてほしい。</li> <li>悩みを一人で抱え込まず, 相談できる環境づくりが大切ではないか。</li> </ul>

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 社会の一員として活躍する力		
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	
	①学校だよりを月1回発行, 学年だよりや学級だよりを適宜発行し, 学校や生徒たちの様子を外部へ発信する。また, 地域清掃やあいさつ運動等により保護者・地域との連携を図る。	①1年での福祉体験, 2年での職場体験, 全校による地域清掃やあいさつ運動, 生徒会による校庭落ち葉掃き等の活動により, 望ましい職業観や勤労観を養う。		
	②HPを月5回以上更新する。すぐーるにより, 連絡・確認事項を適時発信する。また, 緊急・災害時の連絡手段として活用する。	②「ボランティアマインド」, 「障がい者理解」, 「豊かな国際感覚」の育成を図る体験的な活動を実施し, 2020レガシーを継承する。		
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	
	①学校評価で「学校情報の外部への発信」についての肯定的な回答85%以上を目指し, 結果79.9%であった。	①学校評価で「職業観・勤労観の育成」についての肯定的な回答93%以上を目指し, 結果93.9%であった。		
	②学校評価で「HP・すぐーるの利活用」についての肯定的な回答97%以上を目指し, 結果97.3%であった。	②学校評価で「学校2020レガシーの醸成」についての肯定的な回答86%以上を目指し, 結果86.3%であった。		
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>①については, 学校だより等が親の手にわたっていないケースもあるのではないかと。また, 実態が見えにくい質問項目なので, ポイントが低く出たのではないかと。</li> <li>HP やすぐーるでの情報提供は助かっている。更に発信頻度を増やしてもよいのではないかと。すぐーるの利活用ができていくには, 「学校評価アンケート」の回収率が気になる。</li> <li>災害時には, 中学生のボランティアとしての力に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々の協力により, 様々な体験活動が行われ, 今後の人生を豊かにする機会が提供されていてよい。</li> <li>学校運営協議会委員という立場になり, 学校の教育活動において多くの地域の方が関わっていることを知ることができた。</li> <li>「学校2020レガシー」を今後も継続するためには, 地域人材の確保が欠かすことができない。また, 他人に対して何が出来るか, 何を望んでいるのか知る機会をこれからも継続してほしい。</li> </ul>		

人材育成・組織運営	
自己評価	<p><b>【人材育成】</b></p> <p>○若手育成チームの編成，相互授業参観，研修等による指導力向上  主幹・主任教諭・メンターでチームを編成し，組織的に若手教員を育成する計画を立てたが，個々による指導助言はあったものの，チームとして計画的・組織的に育成するまでには至らなかった。授業力向上に関しては，教員相互の授業参観や指導教諭による公開授業により，指導力を高めることができた。</p> <p>○学年・分掌主任の意識の向上  運営委員会や行事委員会で学校課題の共有と解決策の検討を行わせ，主任としての意識を醸成することができた。学校運営への参画に関して，主幹や主任の職務行動を明確にし，管理職と主幹，主幹と主任といった職層ごとの連携が必要である。</p> <p><b>【組織運営】</b></p> <p>○地域と連携した学校運営  地域の会合や行事に積極的に参加し，学校だより等により生徒や学校の様子を外部へ発信し，地域に開かれた学校運営を推進することができた。また，吹奏楽部やダンス部の地域行事への参加を通して，生徒たちが頑張っている様子を外部へ伝えることができた。</p>
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四中で勤務したことが各教員の未来や資質向上に影響を与え，「四中で教員をやってよかった」と感じてもらえるよう，管理職・主幹教諭を中心に引き続き人材育成に取り組んでいただきたい。</li> <li>・学校をあげて地域の会合やイベントに積極的に参加し，部活動の発表の場や生徒の活躍の場をサポートしていることが評価できる。</li> <li>・地域人材を活用し，放課後の自習室を運営していることは，新たな取り組みとして評価できる。</li> <li>・地域との連携ができており，成果を上げている。また，地域と連携した学校運営については，先生方にお世話になっており，感謝している。</li> </ul>

中期的な経営目標の達成状況	
1	豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めた。次年度も学級活動や学校行事等を通して豊かな心を醸成していく。また，教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実現を図っていく。
2	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるために，主体的・対話的で深い学びを実現させた。ICTの活用に関しては，研修・研究を積み重ね，より一層の授業改善を図っていく。
3	食育の推進に関する指導・安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導を充実させた。次年度も食に関する安全を確保するとともに，体育や部活動を通して健やかな体の育成を図っていく。
4	社会に開かれた教育課程の実現を目指し，保護者・地域と連携して教育活動の充実に努めた。コミュニティ・スクール元年にあたっては，計画的に運用することができた。次年度は更に発展・充実させていく。
5	社会の一員として活躍する生徒の育成を目指し，「ボランティアマインド」「障がい者理解」「豊かな国際感覚」を育成することができた。次年度も計画的に各学年の取組に位置づけ，中学3年間を通して育成を図っていく。
次年度の重点課題	
<p>○魅力ある学校づくり（豊かな心の醸成，確かな学力の定着，学校行事・特色ある教育活動の充実，生活指導・進路指導の充実）</p> <p>○特別支援教育の充実（配慮を要する生徒への指導の充実，UD・合理的配慮の推進，校内通級教室・ステップの活用，校内委員会の充実）</p> <p>○地域・保護者と連携した学校づくり（地域行事への参加，CS・地域学校協働本部の活用と連携）</p>	